

## 「よさこい文化」の幼児音楽教育への導入1: 序論

著者	壽美 玲子, 山本 華子
雑誌名	洗足論叢
号	51
ページ	117-130
発行年	2023-03-27
ISSN	2433-9237
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1493/00002673/">http://id.nii.ac.jp/1493/00002673/</a>



# 「よさこい文化」の幼児音楽教育への導入 1

～序論～

The Introduction of “Yosakoi Culture” into Early Childhood Education I : Preface

壽美玲子、山本華子  
Sumi Reiko, Yamamoto Hanako

## はじめに

「よさこい」とは、土佐弁で「今晚おいでなさい」、「夜に来てください」という意味を持つ。漢字で表記すると「夜さ来い」、「夜更来」、「宵更来」などとなる<sup>註1</sup>。「よさこい」に付随する言葉には、“節”、“祭り”、“踊り”などがあり、具体的には下記の用例がある。

- ・《よさこい節》（土佐の民謡）
- ・「よさこい祭り」または「よさこい」（高知県高知市で毎年8月に開催）
- ・《よさこい鳴子踊り》（1954年、武政英策が「第1回よさこい祭り」のために作詞、作曲）
- ・「よさこい鳴子踊り」または「よさこい踊り」または「よさこい」（《よさこい鳴子踊り》の踊り）
- ・「YOSAKOIソーラン祭り」（高知の「よさこい祭り」と北海道の「ソーラン節」を融合させ、1992年より北海道で開催。ひらがなからアルファベットへと表記が変化）

また、「よさこい鳴子踊り」が全国各地に派生し、その地域名に「よさこい」の名が付いた「湘南よさこい」「調布よさこい」などのような「〇〇よさこい」が多数認められる。さらに、世界34の国や地域で、「よさこい鳴子踊り」が踊られ、大きな広がりを見せている。

本研究は、それら「よさこい」とついたものの総称を「よさこい文化」として総括的に捉える。後述するように保育の「5領域」と関わるものであること、鳴子という簡易打楽器を使用して、声、楽器、身体を使った総合的な表現が可能であることに着目して、「よさこい鳴子踊り」を幼児音楽教育へ導入することを考えた。本稿はその現状について把握し、後続の研究の礎となることを目的とする。そのため、本論文では「よさこい文化」を「よさこい祭り」、「よさこい鳴子踊り」に限定する。

## 1 先行研究の概観と研究目的

先行研究には、①歴史的なもの、②民俗学的なもの、③踊りからの観点から捉えたものなどがある。

以下、代表的な先行研究を挙げる。

①歴史的なもの

- ・岩井正浩 2021『高知よさこい祭り 市民がつくるパフォーマンス・アーツ』岩田書院
- ・川竹大輔 2020『よさこいは、なぜ全国に広がったのか ―日本最大級の交流する祭り―』リーブル出版

②民俗学的なもの

- ・内田忠賢 1999『都市の新しい祭りと民俗学－高知「よさこい祭り」を手掛かりに』国書刊行会
- ・矢島妙子 2015『「よさこい系」祭りの都市民俗学』岩田書院

③踊りの観点から捉えたもの

- ・岩田有加「よさこい踊りの振り付けにおける問題と振り付け視覚化システムの効果」<sup>注2</sup>
- ・ケイン樹里安 2017「「踊り子」とは誰か：よさこいとナショナリズムの共振をめぐるフォト・エスノグラフィー」大阪市立大学

「よさこい鳴子踊り」の研究は岩井が網羅的に行っており、「よさこい鳴子踊り」への子どもたちと地域の取り組みについて調査している（岩井 2021：205-254）。しかしながら、「よさこい鳴子踊り」の幼児音楽教育への導入に焦点を当てた研究はほとんど行われていない。

そこで、筆者たちは幼児教育（保育士養成課程）の観点から「よさこい鳴子踊り」を取り上げ、保育の5領域との関わりから「よさこい鳴子踊り」の幼児への効果を捉えることにした。今後、本研究を継続的に行うことにより、幼児音楽教育への「よさこい鳴子踊り」の導入に役立てることを目指している。

本論文はその序論として、「よさこい文化」を概観し、最新のよさこい祭りの実地調査結果をまとめた。具体的には、鳴子踊り発祥の地である高知県における「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」（2022年8月10日、11日開催）を見学し、地元の幼稚園（参加園）を訪問し、関係者への聞き取り調査などの研究方法により、園児の「よさこい鳴子踊り」の現状を捉える。

## 2 よさこい祭り

二 高知発祥の「よさこい祭り」においての「よさこい鳴子踊り」のルールは、

- ①鳴子を鳴らして前進すること
- ②曲のどこかに《よさこい鳴子踊り》のフレーズが入っていること

であり、踊りや曲についてはアレンジが自由となっている。本章では、「よさこい鳴子踊り」の成立要素、「よさこい祭り」の歴史、「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」の調査報告を行う。

## 2-1 「よさこい鳴子踊り」の成立要素

「よさこい鳴子踊り」を成立させる5大要素には、①鳴子、②踊り、③音楽、④衣裳・ヘアメイク、⑤地方車（高知商工会議所青年部 よさこい祭振興会 2019：18-29）がある<sup>注3</sup>。

### ①鳴子

稲作の雀おどしであった鳴子という郷土楽器を必ず使用することになっている。単純な構造の体鳴楽器であるが、全員がピタッと音を揃えるためには、持ち方、鳴らし方を工夫し、練習を重ねる必要がある。標準的な鳴子は、赤いしゃもじに、黒と黄色のミミを持つ形だが、色や形において進化している。

### ②踊り

自由に振り付けられる踊りではあるが、3つのルールに従わなければならない。鳴子を鳴らして前進すること、鳴子は地面に置かないこと、最後の最後まで踊りきることである。「よさこい鳴子踊り」は揃った群舞の美しさに魅力がある。踊り子は、メリハリのある踊りを最高の笑顔で披露する。

### ③音楽

武政英策が作曲した《よさこい鳴子踊り》（1954年）のフレーズを入れることがルールとなっている。それ以外は自由であるため、和楽器使用、サンバ調、ロック調、ディスコ調などのスタイルにするなど、チームごとに個性を活かした音楽となっている。

### ④衣裳・ヘアメイク

時代ごとに流行はあるが、華やかさを視覚化した衣裳・ヘアメイクは見ごたえがある。各チームは個性を出しながら、見栄えのする衣裳をあつらえる。8月の高知の炎天下で、二日間着続けることを考えると、着やすさ、動きやすさ、乾きやすさなどが求められる。

### ⑤地方車

音響（PA）、踊りの伴奏（バンド）などが乗り込んだ車で、踊り子を先導する。ボーカルはバンド付きのものと音源に合わせて歌うものがある。また、雰囲気盛り上げるあおり役が乗り込み、観客にアピールしたりする。車にはライトも付いていて、夜には照明の役割りもする。

## 2-2 よさこい祭りの歴史

### 誕生

高知県は戦後のインフレに加え、昭和南海地震（1946年）によって経済的に深刻な状況にあった。そのような混沌とした中、高知市は人心一新を図ろうと、市制施行60年に当たる1949年に南国高知産業博を開催する計画を立てる。しかし、1ドル360円の単一為替レート、徴税強化など、さらなる不況が押し寄せ、それに追い打ちをかけるように水稻でイモチ病<sup>注4</sup>が大発生し、開催は翌年へ延期を余儀なくされた。

1950年「南国博協賛会」が開催され予想以上の人出となり、中でも県内各地に古くから伝わるほとんどの民俗芸能が集まった「芸能館」は大盛況となった。その中で、人々が初めて目にしたのが「新しいよさこい踊り」である。お座敷踊りである「よさこい踊り」を、新しい時代の誰でも楽しめる踊りにしようと、花柳、若柳、藤間、坂東、山村の日本舞踊五流派の師匠たちが共同で振りを付けて「新しいよさこい踊り」が誕生した。

「南国博協賛会」は大成功に終わり、同年12月には「商工まつり」を開催した。そこで、「新しいよさこい踊り」を披露することとなり、踊り子を再編成し街頭出演を実施した。これが後のよさこい祭りに繋がることとなる。

商工会議所では、「今後、長続きするものを考えなければいけない」と考え、1953年、商工会議所の有志により阿波踊り見学が行われた。“阿波踊りに負けないようなものを作る”ために、1954年4月に「商工業振興だけでなく市民のためのお祭りとする」、「阿波踊りのように永続発展させる」、「新しい時代にふさわしい、新しいものを作る」、「高知にふさわしい“よさこい”を生かし、“よさこい祭り”とする」、「開催時期は阿波踊りの前とする」との骨組みを立て、「よさこい祭り」開催を計画した。開催日については、過去40年の気象データを分析し、降水確率の最も低い8月10日、11日に決定した。

6月25日、高知商工会議所が作詞と作曲を作曲家の武政英策<sup>注5</sup>に依頼した。武政は、わずか5日間で《よさこい鳴子踊り》を創作した。二期作が可能な高知ならではの「鳴子」を用いてジグザグ行進し、行進の時に直線に打つこと、曲線的に回すことを組み合わせた。歌詞は、武政の研究していた“土佐のわらべ歌”、昔から伝わる“よさこい節”、「ヨイヤサノサノ」の囃子ことば、「ヨッチョレヨ」などの土佐言葉を挿入した。

振り付けは、「南国博協賛会」に協力した日本舞踊五流派の師匠たちが担った。7月には、「よさこい祭振興会」が発足、7月15日に歌と踊りを発表した。

こうして、1954年、戦後の復興と市民の健康、商店街の繁栄を祈願し、高知商工会議所、県観光連盟、市観光協会、高知新聞社が主体となり、高知商工会議所が中心となって「第1回よさこい祭り」は開催された。初回は街頭での流し踊りはなく、本部と高知市内7ヶ所の特設舞台での競演となった。(よさこい祭り40周年記念史実行委員会1994:2-15)

## 歴史

1954年8月10日、第1回「よさこい祭り」開催から2019年の第66回「よさこい祭り」までの「よさこい鳴子踊り」を概観すると、チームの年代構成、音楽、踊り、音楽、衣裳など、様々な点での変遷を見ることができる。

### ・1950年代

1954年に第1回「よさこい祭り」が開催され、年々、参加チーム、出場者数が増し、特に町内の踊り子チーム、職域チームなどが増加した。1957年頃からレコード使用の他に特別バンド編成のチームも現れ、地方車も登場した。ペギー葉山の歌う《南国土佐を後にして》が全国的に大ヒットし、土佐ブームが起こる。

・1960年代

NHKの郷土民謡全国大会に、「よさこい鳴子踊り」が取り上げられ、高知放送テレビが全国に向け、「よさこい祭り」の初の実況中継をするなど、「よさこい文化」が全国への広がりを見せ始める。

・1970年代

大阪万国博覧会（1970年）で、アジア初「日本の祭り」10選として踊りを披露する。1972年にはフランスの「ニース・カーニバル」より招待を受け、よさこい“サンバ調”踊りを披露した。この頃より、艶やかな衣裳で、自由に、エネルギッシュに躍るようになる。また、ブラスバンドやエレキバンドの伴奏が増える。

・1980年代

「よさこい祭り」の参加者もついに1万人を超え、各チームはそれぞれのコンセプトを持って個性を競い始めた。益々、衣裳や踊りが派手になり、地方車も豪華さを増し大型トレーラーが注目の的となる。1987年から踊り子の後方に進むことが禁止され、チームの人数は150人以下に限定された。

・1990年代

1992年、北海道札幌市で「YOSAKOIソーラン祭り」が開催され、各地へ広がるきっかけとなる。また、受賞チームの踊りが見たいという要望に後夜祭が開催されるようになり、「よさこい全国大会」も開催される。踊りは“ダイナミック”から“新和調”へと変化し始める。

・2000年代

2001年、日本のファッションの発信地である原宿で、「日本人のアイデンティティを求めて」というテーマによって「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい」が開催され、全国から「よさこい鳴子踊り」の有名なチームが集結する。

・2010年代以降

2013年、全国のよさこい関係者で「よさこいサミット」を開催する。2017年には「ヨーロッパ連合チーム」が海外チームとして初めて参加した。2018年、8月10日を「よさこい祭りの日」として宣言。祭りのフィナーレには、「総踊り」で締めくくるスタイルが定着した。披露曲は、元祖《正調よさこい鳴子踊り》、全国大会で披露された《鳴子華》、《この地へ〜》などがある。

五

近年「よさこい」と名の付く祭り、踊りは全国各地のみならず海外でも開催されている。その中でも「YOSAKOIソーラン祭り」（北海道）、「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい（東京都）」などは特に有名である。また、「日本三大よさこい祭り」は高知の「よさこい祭り」、北海道の「YOSAKOIソーラン祭り」、愛知県名古屋市の「につぼんど真ん中祭り」を指し、「よさこい」という言葉は、すでに高知の「よさこい祭り」、「よさこい鳴子踊り」から自立し広がりを見せている。

高知県観光振興部国際観光課<sup>注6</sup>によると、全国で200ヶ所以上、海外でも34ヶ所で「よさこい鳴子踊り」が披露され、2016年から海外のよさこいチームを高知に招き、「よさこいアンバサダー」として認定し、さらに世界に向けて発信し、普及させる取り組みを進めている。2022年3月時点で、19ヶ国24チーム68人を「よさこいアンバサダー」として認定している。

### 2-3 「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」

2020年、2021年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、「よさこい祭り」は中止となった。2022年は「よさこい祭り」の代替えとして、規模縮小や制限を設け、名称を「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」として開催を決定した。出場登録100チームのうち実際に参加したのは96チーム（約6,600人）で、そのうち県外からは38チームが参加している。

しかし、開催時期が新型コロナウイルス感染症第7波と重なったため、試行錯誤が続いたであろうことが想像できる。主催のよさこい祭振興会は「3年ぶりのよさこい祭りが始まります。－中略－制限が多い中でも、人と人とのつながりを大切によさこいをつないでいきたい”そのような気持ちで準備を進めてきました」（『高知新聞』2022.8.10 P.15）と発信している。

「よさこい祭り」中止前の2019年の「よさこい鳴子踊り」と「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」においての、参加応募ルールの変更点は表1の通りである。

表1 よさこい祭り「よさこい鳴子踊り」2019年と2022年の参加応募ルールの比較

変更点	2019年	2022年（新型コロナ感染症防止対策による）
よさこい祭り開催日	2019年8月9日、10日、11日、12日 (8月9日/前夜祭、8月12日/後夜祭、よさこい全国大会)	2022年8月10日、11日 (前夜祭、後夜祭、全国大会なし)
名称	「第66回よさこい祭り」	「2022よさこい鳴子踊り特別演舞」
会場	16ヶ所（競演場9、演舞場7*）	12ヶ所（今回は演舞場のみ）
応募参加チーム数	170チーム（実際の登録数/207チーム）	約80チーム（実際の登録数/100チーム）
1チームの踊り子数	150人以内	150人以内（変更なし）
地方車	1チームにつき必ず1台使用	複数チームでの共同使用可
隊列	原則4列	基本4列、感染症防止対策のため会場によって2～3列
審査	・昼の部/「よさこい大賞」「金賞」「銀賞」「審査員特別賞」など授与 ・夜の部/個人審査で“花メダル”授与	・審査、表彰なし ・個人メダル授与は会場により追手筋では行わない
参加費	1チーム60,000円（第63回資料より確認）	1チーム50,000円

\*競演場/踊りの審査あり 演舞場/審査なし（ステージ型や駐車場、商店街など利用）

（よさこい祭振興会発行参加応募資料より筆者作成）

表1から、開催日数と出場チーム数は半減、会場数も減少していることがわかる。「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」で大きく変更された点として、次の点が挙げられる。

六

- ①地方車は1チーム1台であったものが共同使用可能となった
- ②表彰（「よさこい大賞」、「金賞」、「銀賞」、「審査員特別賞」、「地区競演場連合会奨励賞」、「地区競演場連合会地方車奨励賞」など）のための審査や花メダルの授与は実施しない
- ③参加費の減額

規模を縮小しての実施であったことは、新型コロナウイルス感染症拡大防止を鑑みてのことであり、地方車の共同使用や参加費の軽減については、コロナ禍での出場によって、チームへの出場費負担減に

も配慮されたものであろう。

本調査では、追手筋有料栈敷席からの演舞鑑賞を試みた。「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は以下の通りである。

#### ①検温テントの設置

演舞会場では、検温テントが各所（全32ヶ所）に設置されていた。検温テントでは検温、手指の消毒を実施し、問題がなければ“虹色のリストバンド”を装着する。リストバンド装着の場合、他会場での検温不要。

#### ②栈敷席の消毒

有料栈敷席は完全指定席で、昼夜の部総入れ替え後、スタッフが1席ごと消毒作業を実施していた。

#### ③栈敷席の減少

有料栈敷席は、例年通り追手筋350メートルに設置されたが、2,600席から1,800席に減少（『高知新聞』2022.6.21）し、演舞が行われる追手筋にはチケット購入者のみが鑑賞できるように、筋に沿って隙間なくテント（目隠し）が張られていた。

#### ④掛け声なし

例年より、踊り子と観客の掛け声が少なかった。「感染症対策や熱中症予防をして声援の代わりに拍手で応援しよう」と呼び掛けたことによるだろう。

#### ⑤チーム間の距離あけ

出場チーム数の制限、踊り子数の減少などに伴い、演舞チームと次の演舞チームまでの距離があげられていた。

その他、熱中症対策としては、踊り子隊の健康状態を監視するスタッフや給水の徹底が見られた。

上記のように経費削減のため、共同地方車を使用するチームも見られた。『高知新聞』（2022.8.11）によると、18チームが地方車を共有して出場。本来、音響機器のレンタル、照明などに80～200万円がかかるが、それらの経費が削減されたため、チームから今後も続けて欲しいとの声が挙がっていた。

例年、首にかけられている華々しいメダルは確認できず、参加者全員には平等にメダルが与えられた。

『高知新聞』の通覧により、苦勞した以下の点が確認できた。

- ・踊り子の確保に苦勞した（参加費の値下げや、経費削減に努めるチームもあった）（2022.7.10）。
- ・踊りのための練習場の確保が困難であった（2022.7.10）。
- ・練習時のマスク着用で熱中症対策との両立に苦悩した（2022.7.10）。
- ・児童の体調管理面から保護者同伴での参加としたが参加者が見込まれなかった（2022.7.10）。
- ・医療、介護、教育現場での勤務のため参加を諦めた（2022.7.10）。
- ・練習には動画を利用したなどの声も挙がっていた（2022.7.24）。
- ・例年、飛び入り参加が可能であった「市民憲章よさこい踊り子隊」は、先着100名限定での事前申し込み制とした（2022.7.5）。



一方、良かった点も報道されている。

- ・ 演舞場によっては、後に続くチームがなく2回連続で演舞できた会場もあった(2022.8.11)。
- ・ チームの待機時間短縮ができた(2022.8.11)。

また、最後の練習を見学した「上町よさこい鳴子連」のように、例年の出場資格では中学校3年生までだが、コロナ禍で「よさこい鳴子踊り」に参加できなかった高校生たちも参加可能としたチームもあった。そして、何よりも3年ぶりの「よさこい鳴子踊り」によって、「よさこい文化」すべての域で活気付き、来年の「第70回よさこい祭り」へと繋いでいこうという思いが高まっていったことは、特筆すべきことである。

### 3 子どもと「よさこい鳴子踊り」

#### 3-1 5領域との関わり

「保育所保育指針」の第2章の「保育の内容」の「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」を見ると、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の5領域が挙げられている。それぞれ3つのねらいが設定されているが、そのうち「よさこい鳴子踊り」に対応できるものを選び、考察する。

・ 健康

##### ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。

祭り自体が賑やかで楽しいものであり、練習して踊れるようになると充実感が感じられる。

##### ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。

踊りという身体遊びにおいて、行進しながら全身を使って運動することにより、体を動かす楽しさを味わえる。

・ 人間関係

##### ② 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。

友達や保育者とともに、踊りを覚え、ともに踊ることによって、一体感を覚える。踊りを見に来る人々の応援によって、自分の生活に関わる地域の人々に親しみを覚える。

##### ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

踊りという集団行動において、自己表現をしながら、友達と合わせることの大切さを感じ、仲間意識を持つようになる。

・ 環境

##### ① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

「よさこい鳴子踊り」に地域の文化や伝統として親しむ。

②身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。

「よさこい鳴子踊り」に使われる郷土の楽器、鳴子に興味をもち、日常生活においても遊びに取り入れられる。

・言葉

①自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。

「よさこい鳴子踊り」の囃子ことばである「ヨイヤサノサノサノ」、「ヨッチョレヨッチョレヨ」などが体の動きと連動していて、楽しさを感じる。

・表現

①いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。

「よさこい鳴子踊り」のリズム、メロディーに親しみ、鳴子を使う楽しさを味わう。

③生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

「よさこい鳴子踊り」に参加するために必要な地方車、衣裳、鳴子、フラフなどを園が用意して、園生活において、子どもが郷土の文化を表現できるようにする。

以上のように、「よさこい鳴子踊り」には幼児の保育内容のねらいとする要素が備わっているため、この踊りを幼児音楽教育に取り入れる価値は十分にあると考えられる。

### 3-2 「よさこい鳴子踊り」の幼児体験の意味

本稿では、「よさこい鳴子踊り」を子どもが行うことの意味を、関係者への聞き取り調査から探った。

- ・鳴子は握っただけで、簡単に鳴らせる（鳴子製作業A）。
- ・鳴子を持つことによって、リズムが取りやすい（鳴子製作業A）。
- ・コミュニケーション能力を高められる（振付師B）。
- ・踊ることによって、脳が発達する（振付師B）。
- ・鳴子だけではなく、提灯や旗持ちなど他の役割りもある（振付師B）。
- ・世の中の人に見てもらい、成功体験となる（振付師B、園長C、保育士E）。
- ・達成感を味わえる（保育士D）。
- ・地域との関わりを作ることができる（園長C、保育士E）。
- ・小学生になると踊る機会が少ないため、貴重な子どもの頃の思い出となる（保育士D）。

九

ここから、「よさこい鳴子踊り」の特徴から子どもの発達に役立つものがあることがわかる。踊ることにより、人や地域との関わりができて、自身の体験や思い出にプラスに働くとと言える。

### 3-3 よさこい祭り出場園

高知県庁によると<sup>注7</sup> 2022年4月1日現在、高知県には幼稚園は33園（国立1園、公立9園、私立23園）、幼保連携認定こども園は18園（公立9園、私立9園）、保育所は227園（公立121園、私立106園）、他に地域型保育事業所がある。そのうち、「よさこい祭り」に出場した園とその出場年をまとめた（表2）。

表2 「よさこい鳴子踊り」出場園と出場年

\*2020,2021年は新型コロナのため「よさこい祭り」休止

園名	出場年	
みさと幼稚園	1981-2019 (2022休)	1981年/みさと・くるみ幼稚園合同出場
くるみ幼稚園	1981-2019, 2022	1981年/みさと・くるみ幼稚園合同出場
杉の子3園ちびっこ隊	1982-2019, 2022	1982-1983年/杉の子幼稚園出場 1984年より「杉の子3園ちびっこ隊」3園出場
みかづき第二幼稚園	1982-2019 (2022休)	
みかづき幼稚園	1983-2019, 2022	
桜井幼稚園	1997-2019 (2022休)	1971-2008年/桜井・芸術幼稚園合同出場
芸術幼稚園	1997-2019 (2022休)	1971-2008年/桜井・芸術幼稚園合同出場
ひまわり・あとむ幼稚園	1999-2019 (2022休)	
春野乳幼児保育園	2001-2002, 2004-2011, 2013-2019 (2022休)	
もみのき幼稚園	2015-2019, 2022	
丑之助学園「チームうしのす家」	2019, 2022	

(『よさこい祭り60周年記念誌 よさこい祭り60年』『よさこい読本』より筆者作成)

高知の「よさこい鳴子踊り」への出場園は1981年の第28回、みさと・くるみ幼稚園から始まり、年々増加していった。新型コロナウイルス感染症拡大以前の2019年までの約40年間で、約10園がほぼ連続で出場している。私立幼稚園の保護者の中には、「よさこい鳴子踊り」への出場を期待して子どもの入園を考えることもあるという。

しかし、3年ぶりとなる「2022よさこい特別演舞」には、約半数の5園の出場となった。新型コロナウイルス感染症の収まらぬ中での開催で、止むを得ず出場を中止した園もあった。

また、高知県下の保育園、幼稚園では、運動会や夕涼み会などで「よさこい鳴子踊り」を披露する園は大変多い。幼少時から「よさこい鳴子踊り」に接することで、「よさこい鳴子踊り」が高知の伝統の踊りであり、地域の文化として身近に感じられるのだろう。

### 3-4 「2022よさこい鳴子踊り特別演舞」の出場園

学校法人土居学園くるみ幼稚園、認定こども園みかづき幼稚園、杉の子3園ちびっこ隊、学校法人日吉学園もみのき幼稚園、丑之助学園「チームうしのす家」の5園が出演した。園ごとにどのような演舞であったか、記録動画から1園ずつ紹介する。分析においては園が特定できないよう、園名はアルファベット表記をする。

・ F園

衣 裳：Tシャツ・ズボン、ワンピース

音 楽：サッカーの応援歌のような部分、よさこい節は歌詞なしで伝統的

踊 り：飛び上がり、回転、腕を挙げて円を描く、正調の踊り、鳴子も前後左右に多様に使っていた。

地方車：園名、海の絵

・ G園

衣 裳：Tシャツ・ズボン、麦わら帽子

音 楽：エイサー的、裏打ちリズム

踊 り：静止して踊る、足を挙げる。

地方車：園名、動物の絵

・ H園

衣 裳：法被・ズボン、鉢巻

音 楽：躍動的な子どもの歌、太鼓などを使用

踊 り：手を挙げる、後ろを向く、きめポーズ、隊列を変える。

地方車：園名、動物の絵

・ I園

衣 裳：Tシャツ・ズボン

音 楽：速くて軽快、馴染みやすいメロディー

踊 り：足を挙げる、手を振る、ジグザグ進み

地方車：園名、園児の写真

・ J園

衣 裳：Tシャツ・ズボン

音 楽：アニメ的で子どもが好きそうな曲想、歌詞に園生活や園名がこめられている。

踊 り：かけ足と歩きの部分、列による違い、後ろ向きで前進、足のステップ、手を挙げる、屈伸、肩を組む。

地方車：園名、子どもが描いた似顔絵、シャボン玉が出ている。

全体的に言えることは、音楽（リズムとメロディー）が変化していくことである。正調を挿入するという制約に起因すると思われるが、それによって様々な音楽に対応して踊ることが可能になる。鳴子の使い方も多様で、振り方も前後、左右、上下、斜め、円を描く、裏拍で打つなど、工夫を凝らしている。手と足を一緒に使う、伸びる、かがむ、止まる、進む、飛ぶ、後ろを向く、回転するなど、振りが複雑で、多くのことを考えながら踊ることにより、脳と身体の発達に効果があると考えられる。

## 終わりに

1954年から開催された「よさこい祭り」の「よさこい鳴子踊り」は、この70年近くで出場チームや参加者の増加で規模を増し、衣裳や音楽もより華やかになった。また、年月を重ねて、音楽もサンバ調、ロック調、ディスコ調に変化させるチームも出た。踊りもダイナミックになっていったが、近年は、また和調に戻る傾向が見えてきた。また、「YOSAKOI ソーラン祭り」によって全国に広がりを見せ、海外34の地域で踊られるほどになった。

それは、老若男女誰もが楽しめる踊りであるということであり、本研究で「よさこい鳴子踊り」は幼児音楽教育に役立つ要素があることがわかった。「よさこい鳴子踊り」発祥の地、高知では園の取り組みとして実践している。「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」の現地調査から、出場園の演舞を分析したところ、音楽、踊りともに工夫が凝らされていた。コロナ禍により出場を辞退した園もあると聞くので、今後は「よさこい祭り」の出場園だけではなく、他の行事などで踊りに取り組んでいる園の実践例も調査する必要がある。

また、高知に暮らしながら「よさこい鳴子踊り」を体験することと、他地域で体験することの意味は異なるだろう。そのため、高知ではなく、札幌や東京などの他地域で「よさこい鳴子踊り」に取り組んでいる事例も合わせて考察することによって、幼児音楽教育への導入の手がかりとなると考えられる。

今後は札幌の「YOSAKOI ソーラン祭り」、東京の「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい」の現地調査も検討している。

### 執筆分担

壽美玲子：はじめに、1、2-2、2-3、3-3、終わりに

山本華子：2-1、3-1、3-2、3-4、終わりに

### 注

注 1 教育芸術社「郷土の音楽・高知」(<https://www.kyogei.co.jp/shirabe/kyoudo/text37.html> 2022.8.25 アクセス)

注 2 岩田有加「よさこい踊りの振り付けにおける問題と振り付け視覚化システムの効果」([http://www.res.kutc.kansai-u.ac.jp/~yone/research/pdf\\_graduate\\_thesis/201303g\\_IWATA\\_Yuka.pdf](http://www.res.kutc.kansai-u.ac.jp/~yone/research/pdf_graduate_thesis/201303g_IWATA_Yuka.pdf) 2022.8.23 アクセス)

注 3 岩井は衣裳、地方車、踊り、音楽と、鳴子を音楽に含めて4つに分類している。(岩井 2021:46-53)

注 4 日本の稲作において最も深刻な病害で、収穫量や品質を低下させる。(https://www.affrc.maff.go.jp/docs/project/information/pdf/kenkyuseika.pdf 2022.11.13 アクセス)

注 5 戦前よりNHK 京都和洋管弦楽団の指揮、映画音楽の作曲者として活躍。戦後は高知に移住し高知県下のわらべうたや民謡を採譜した。代表作は、《南国土佐を後にして》(武政 1983:101,156)

注 6 <https://yosakoi-nippon.jp/page.html?id=1> よさこい (2022.8.23 アクセス)

注 7 [https://www.pref.kochi.lg.jp/opendata/docs/kyoiku\\_kosodate/](https://www.pref.kochi.lg.jp/opendata/docs/kyoiku_kosodate/) 高知県 (2022.8.25 アクセス)

## 引用・参考文献

### 書籍

- ・岩井正浩 2021『高知よさこい祭り 市民がつくるパフォーミング・アーツ』岩田書院
- ・内田忠賢 1999『都市の新しい祭りと民俗学－高知「よさこい祭り」を手掛かりに』国書刊行会
- ・川竹大輔 2020『よさこいは、なぜ全国に広がったのか－日本最大級の交流する祭り－』リーブル出版
- ・高知商工会議所青年部 よさこい祭振興会 1993『よさこい読本 Vo.2』よさこい祭振興会
- ・高知商工会議所青年部 よさこい祭振興会 1994『よさこい読本 Vo.3』よさこい祭振興会
- ・高知商工会議所青年部 よさこい祭振興会 2018『よさこい読本 Vo.27』よさこい祭振興会
- ・高知商工会議所青年部 よさこい祭振興会 2019『よさこい読本 Vo.28』よさこい祭振興会
- ・武政英策 1983『武政英策作品集 土佐ふるさとのうた』高新企業（株）出版部
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 2019『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 原本』チャイルド社
- ・矢島妙子 2015『「よさこい系」祭りの都市民俗学』岩田書院
- ・よさこい祭り振興会 1973『よさこい祭り 20 年史』高知企業株式会社出版社
- ・よさこい祭り 40 周年 記念史実行委員会 1994『よさこい祭り 40 年』よさこい祭振興会

### 論文

- ・岩井正浩 2003「エイサー・阿波おどり・よさこい祭りにおける民謡・民俗芸能の継承・伝播・創造の現代的展開」(科学研究費基盤研究 (C) 報告書)
- ・ケイン樹里安 2017「「踊り子」とは誰か：よさこいとナショナリズムの共振をめぐるフォト・エスノグラフィ」『市大社会学』第 14 巻、大阪市立大学、34-51
- ・畑野裕子 2021「よさこい系および YOSAKOI ソーラン系の祭りや踊り」の研究動向に関する一考察 - CiNii 掲載論文を中心に -」『ジュニアスポーツ教育学科紀要』8 号、神戸親和女子大学ジュニアスポーツ教育学科、33-45

### 新聞

- ・『高知新聞』2022.7.5-8.12

### インターネット検索

- ・<https://www.kyogei.co.jp/shirabe/kyoudo/text37.html> 「郷土の音楽 高知県」教育芸術社 (2022.8.15)
- ・[https://yosakoi-bunka.com/knowledge\\_yosakoi/](https://yosakoi-bunka.com/knowledge_yosakoi/) 「原点・文化を知る」よさこい文化協会 (2022.8.16)
- ・<http://www.cciweb.or.jp/kochi/yosakoiweb/> 「よさこい祭り公式 Web Site」高知商工会議所内よさこい祭振興会 (2022.8.18)
- ・<https://yosakoi-nippon.jp/page.html?id=1> 「よさこいの歴史」高知県観光振興部国際観光課 (2022.8.18)
- ・[https://www.pref.kochi.lg.jp/opendata/docs/kyoiku\\_kosodate/](https://www.pref.kochi.lg.jp/opendata/docs/kyoiku_kosodate/) 高知県庁 HP (2022.8.20)
- ・[http://www.res.kutc.kansai-u.ac.jp/~yone/research/pdf\\_graduate\\_thesis/201303g\\_IWATA\\_Yuka.pdf](http://www.res.kutc.kansai-u.ac.jp/~yone/research/pdf_graduate_thesis/201303g_IWATA_Yuka.pdf) 岩田有加「よさこい踊りの振り付けにおける問題と振り付け視覚化システムの効果」(2022.8.23)

### CD-ROM

- ・よさこい祭振興会 2015『よさこい祭り 60 年記念誌 よさこい祭り 60 年』よさこい祭振興会

### 聞き取り調査

- ・鳴子製作業 A (2022.8.8)
- ・振付師 B (2022.8.8)

洗足論叢 第51号 (2022年度)

- ・園長C (2022.8.9)
- ・保育士D (2022.8.9)
- ・保育士E (2022.8.9)